

第23期（2021年3月期） 第2四半期決算のご説明

2020/11/12



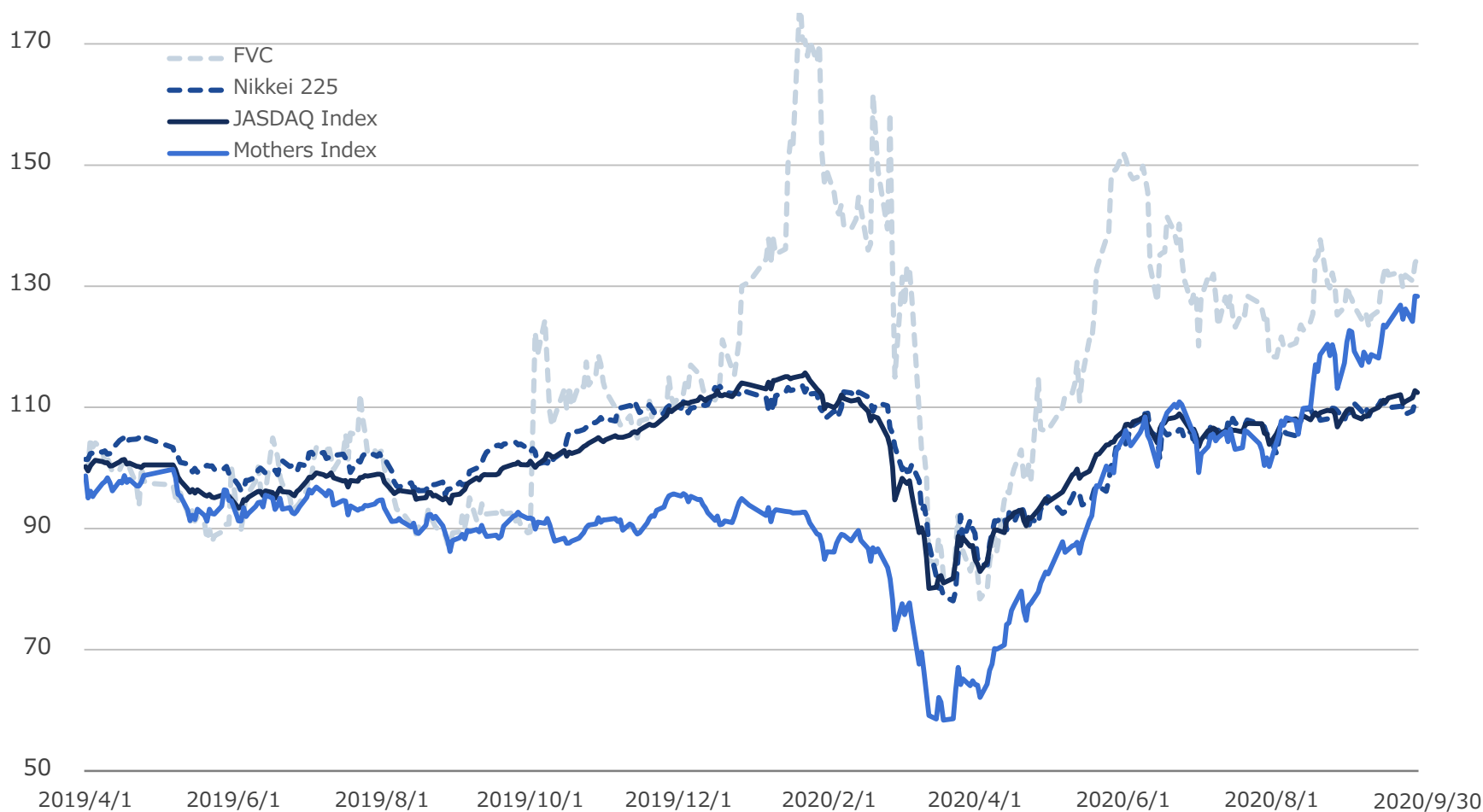
Future Venture Capital

1. 市場環境	・ ・ ・ ・ P.03
2. 決算説明	・ ・ ・ ・ P.08
3. 主な取り組み	・ ・ ・ ・ P.18

市場環境

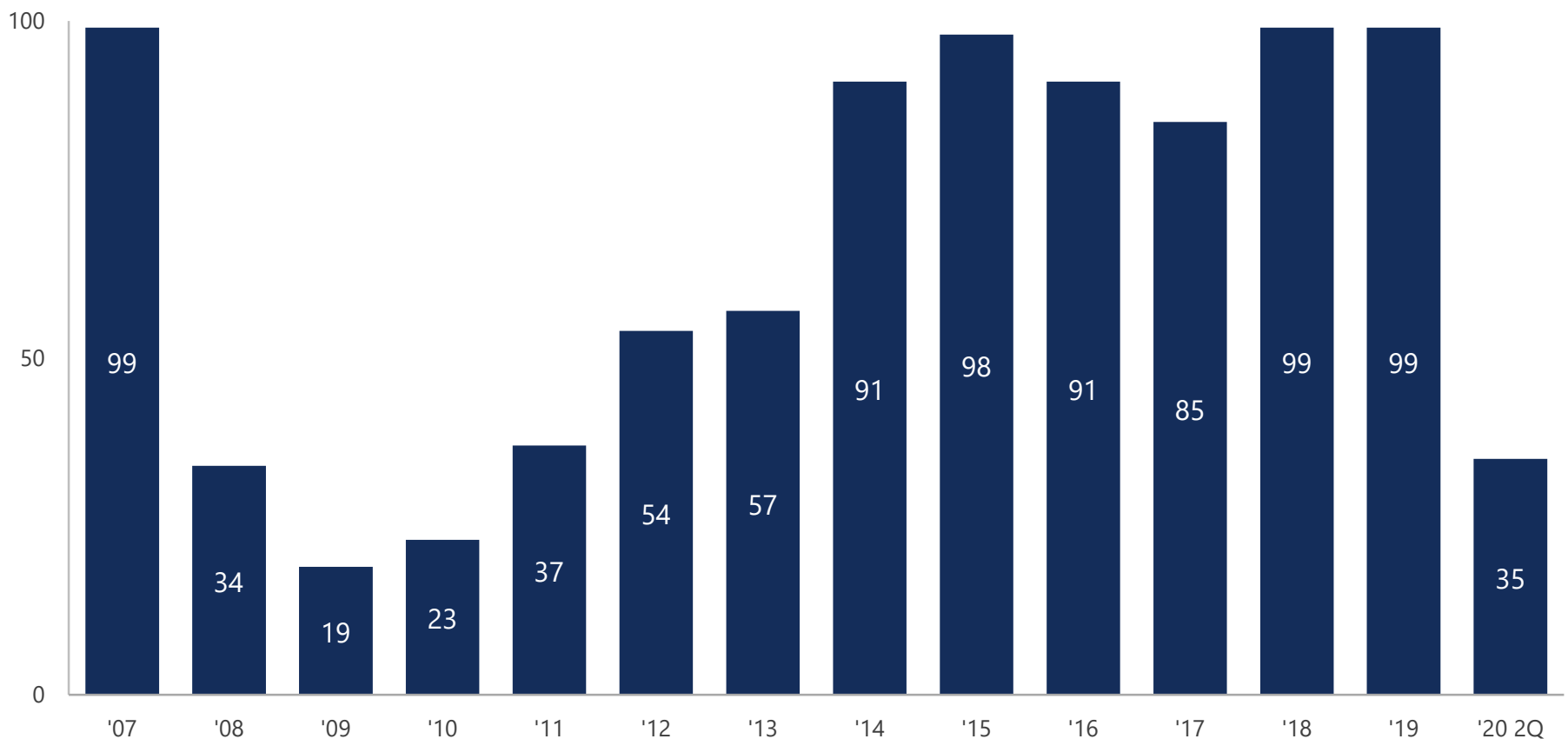


日経平均、新興市場は共に2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で下落、持ち直しを見せるも先行きは不透明な状況。



1.2. 新規上場市場の状況【新規上場社数】

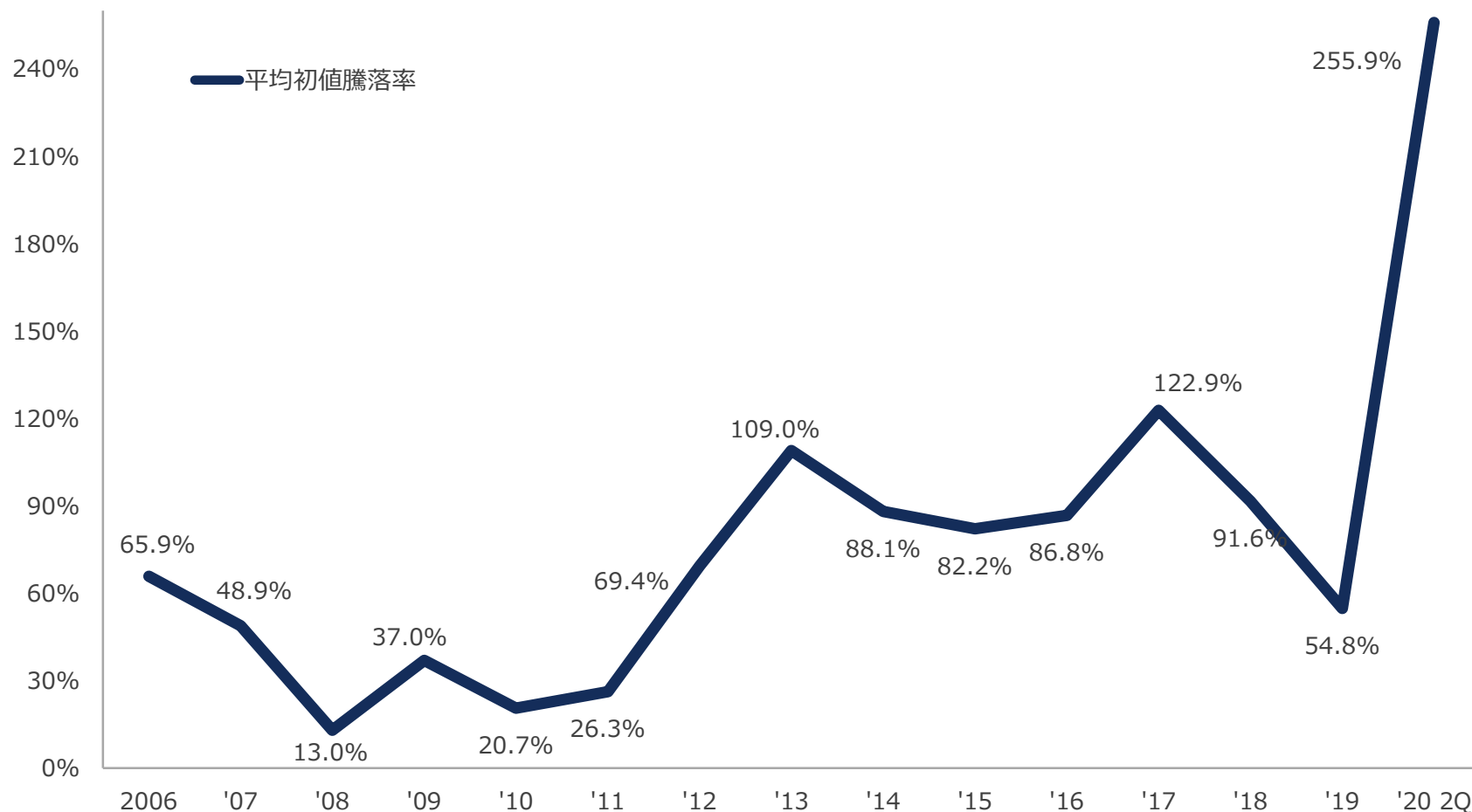
■ 2020年度上期は新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念が広がる中、5社が上場中止となった。一方で35社が上場を果たすなど、前期上期34社とほぼ同水準で推移している。



1.3. 新規上場市場の状況【平均初値騰落率】

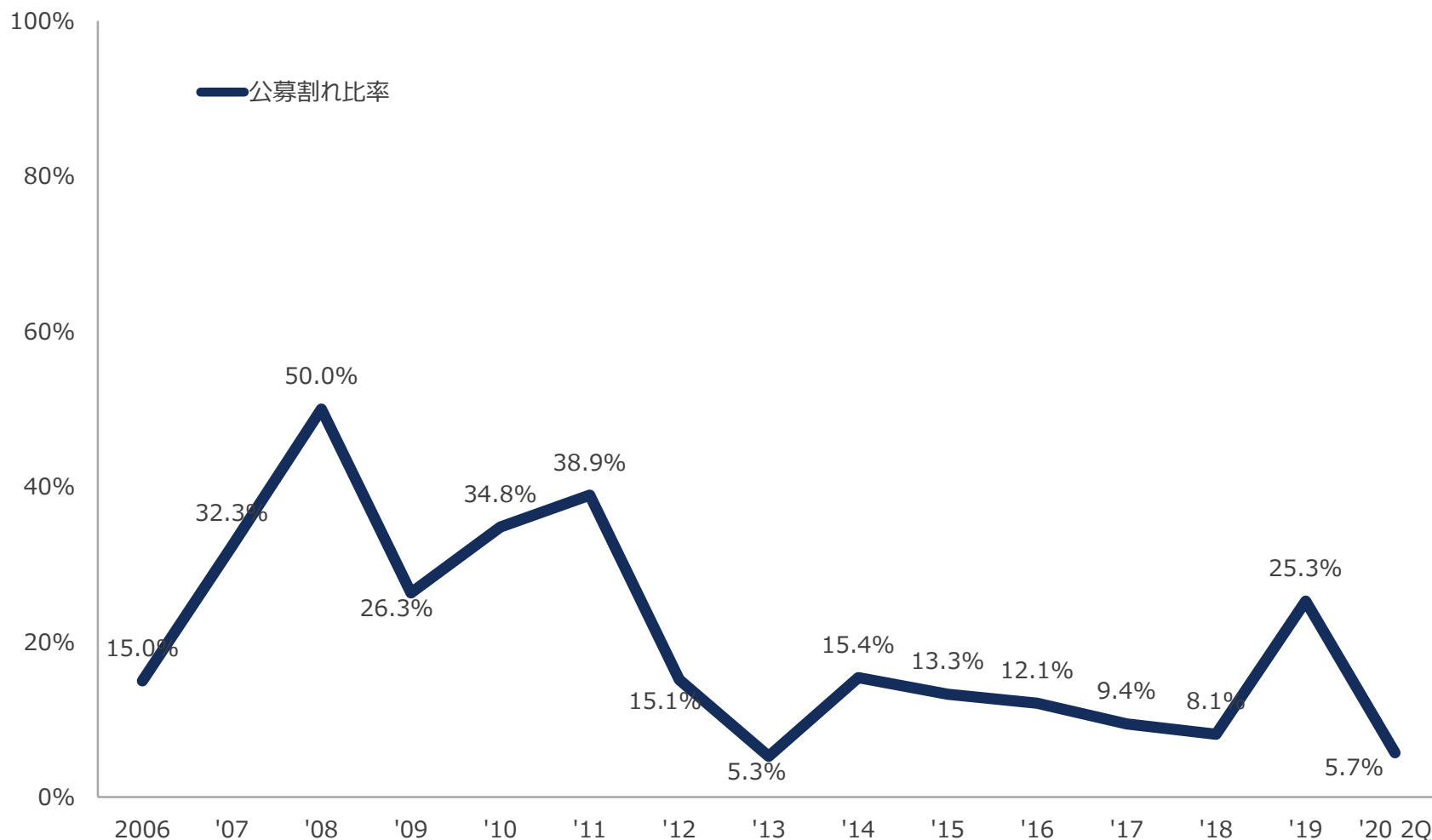
2020年度上期上場した35社のうち、公募割れは2社のみ。一方、平均初値騰落率は255.9%となり、Withコロナ、Afterコロナでの成長企業への期待が現れた。

※初値騰落率： $\{ (\text{初値} - \text{公募価格}) / \text{公募価格} \} \times 100 (\%)$



2020年1月以降、初値が公募価格を下回るケースは突出し、新型コロナウイルス感染症拡大による株式市場の混乱の影響を受けたていたが、落ち着きを見せつつある。

※公募割れ比率：新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率



決算説明

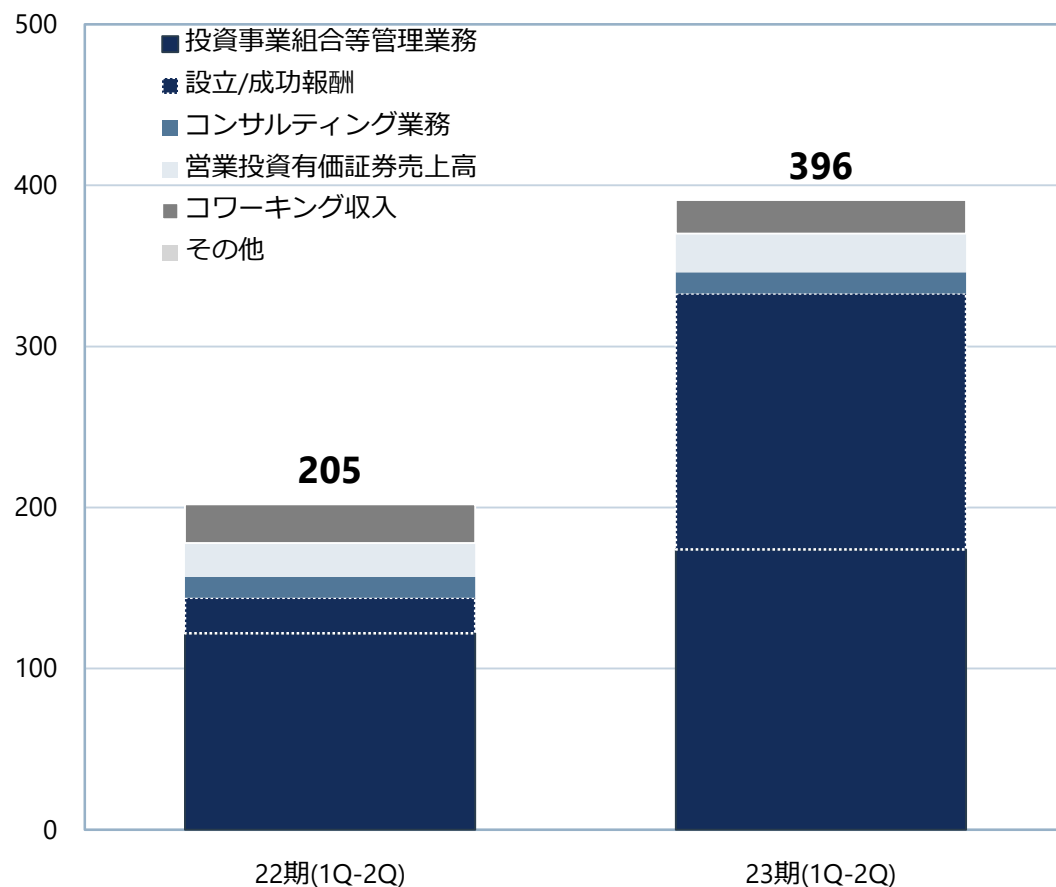


2.1.決算概要（PL）

単位：百万円	第22期2Q (2019/4~2019/9)	第23期2Q (2020/4~2020/9)	対前期比
売上高	205	396	191
営業損益	△76	△167	△90
経常損益	△23	△131	△108
当期純損益	△33	△152	△119
親会社株主に帰属する 当期純損益	△43	△158	△115

新規ファンドの設立による管理報酬の増加、投資先企業の上場による有価証券の売却および成功報酬獲得により、売上高は大幅に増加

(百万円)

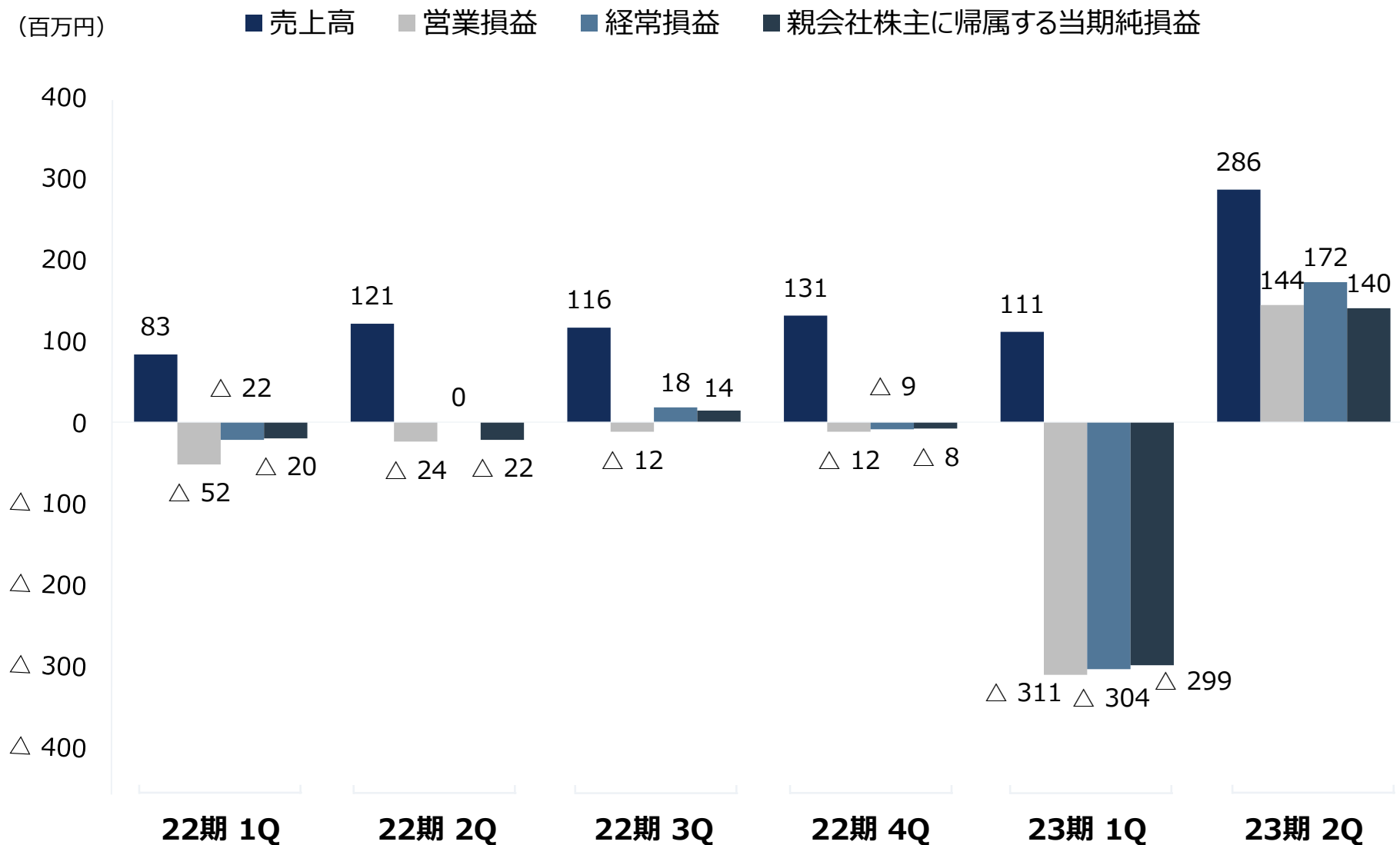


前年同期比

191

百万円

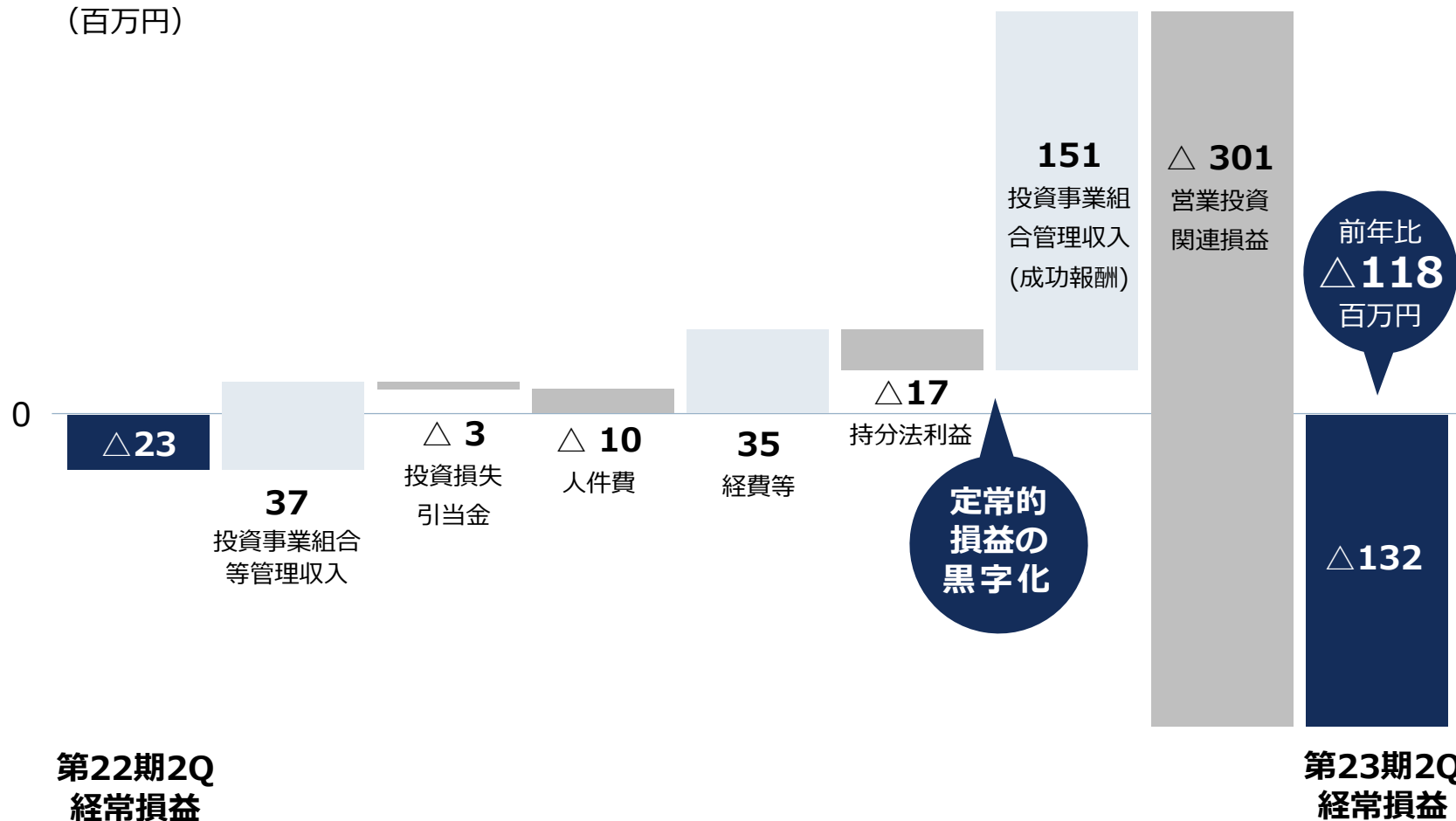
2.3.決算概要（四半期PL）



2.4.経常損益の増減分析（前年同期比）

売上高は大幅増収となる一方、個別の投資先企業の減損により、赤字幅は拡大
安定収益となるファンド管理収入が増加し、かつ、投資人材の採用により人件
費は増加するも全体では経費削減することで、成功報酬、営業投資関連損益を
除く定常的な損益について、赤字から黒字への転換を達成

（百万円）



持分法適用関連会社であるデジアラホールディングスの業績は一時的に減収となったものの引き続き堅調に推移し、持分法による投資利益を計上

※業績数値の詳細は非開示



持分法による
投資利益

35
百万円

所在地	神戸市東灘区向洋町6丁目9
事業内容	インターネットを利用した大型住宅設備機器等の販売 など
資本金	99百万円
取得株式数	5,080株（持株比率24.8%）
株式取得実行日	2017年9月28日,11月30日

2.6.決算概要（BS）

単位：百万円	第22期4Q (2020/3末)	第23期2Q (2020/9末)	対前期比
流動資産	2,284	2,046	△238
うち 現金及び預金	1,794	1,695	△99
うち 営業投資有価証券	457	166	△291
うち 投資損失引当金	△2	△6	△4
固定資産	762	771	9
資産合計	3,046	2,818	△228
流動負債	282	202	△80
固定負債	33	38	5
負債合計	315	241	△74
自己資本	2,597	2,438	△159
純資産	2,731	2,577	△154
総資産	3,046	2,818	△228
自己資本比率	85.3%	86.5%	1.2

2.7.決算概要（CF）

単位：百万円	第22期 2 Q (2019/4~2019/9)	第23期 2 Q (2020/4~2020/9)	対前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	-99	-87	12
投資活動による キャッシュ・フロー	-2	-11	-9
財務活動による キャッシュ・フロー	-64	-0	64
現金及び現金同等物の 期末残高	1,973	1,695	-278

※当社及び当社が管理・運営する投資事業組合からのスタートアップ等への投資及び売却に係るキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローにて計上しております。

かんしん未来ファンド、ウィルグループインキュベートファンドより出資した、KIYOラーニング株式会社が6月12日に上場承認を受け、7月15日にマザーズ上場。

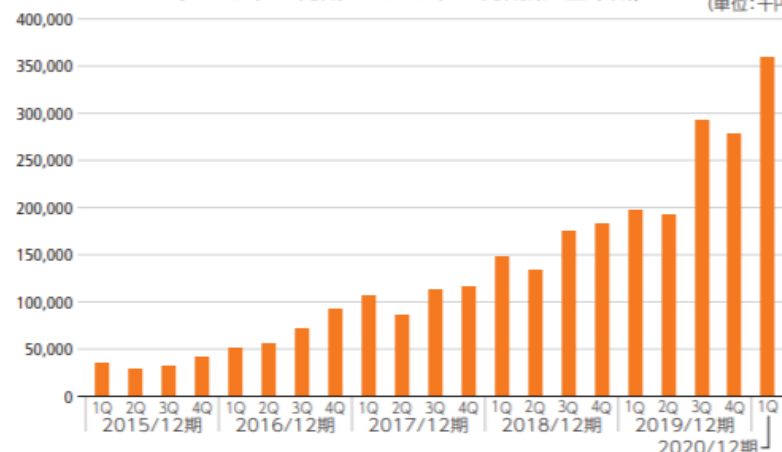


所在地	東京都千代田区
事業内容	個人向けオンライン資格講座及び 法人向け社員教育クラウドサービスの提供
株式比率	かんしん未来ファンド 3.70% ウィルグループファンド 2.67% ※両ファンドを合わせるとVCとしては第2位の比率

FVCは、同社の上場に伴いFVCが運営するファンドが株式を売却したことにより、成功報酬が発生したことにより、投資事業管理収入として合計で150百万円を計上。

売上高(現金ベース) 四半期推移
(2015年12月期～2020年12月期第1四半期)

(単位:千円)



**FVCグロース二号ファンド（当社出資比率52.6%）より48百万円投資し、第20期（2018年3月期）に株式を一部売却。
第21期（2019年3月期）、第22期（2020年3月期）及び当第2Q累計期間には売却しておらず、180万株保有中。**



Robot of Everything

所在地	東京都文京区
事業内容	自律移動ロボットテクノロジー事業
資本金	1,302百万円
投資時点株価	20円
残株数	1,800,000株

主な取り組み

2020/4～2020/9





地方創生ファンド

出口戦略を必ずしもIPOやM&Aに限定せず、地域における創業率の向上、域内経済の活性化を実現するためのファンド



CVCファンド

コーポレートベンチャリングの取り組みの促進ツールとして、特定の事業会社と事業シナジーの高いベンチャー企業への投資を行うファンド



ベンチャーファンド

優れた技術やサービスを持ち、成長性が高く見込まれるベンチャー企業への投資を行うファンド

「地方創生ファンド」と「CVCファンド」に注力

01

安定収益源確保のために、ニーズの高さを見せる「地方創生ファンド」と「CVCファンド」の新規設立を促進

02

ファンドの新規設立件数を拡大するために、人材強化と営業戦略の再構築を実施

03

ベンチャー企業への支援メニューの拡充と、ファンド運営の効率化を図るための新たなプラットフォームを構築

■ 地域のベンチャー企業を支援する「地方創生ファンド」を新たに2ファンド設立

(単位：百万円)

エリア	ファンド名	設立	総額
大分	ほうわ創業・事業承継ファンド（＊１）	2020/6	300
京都	京都市スタートアップ支援2号ファンド（＊２）	2020/9	260

新規ファンド設立数

2 本

新規ファンド設立総額

560 百万円

(＊１)当ファンドは、FVCにとって九州地域における初の地方創生ファンドの組成となります。

(＊２)当ファンドは、2016年に設立した京都市スタートアップ支援ファンドの後継ファンドです。

事業会社のオープンイノベーションを目的とした「CVCファンド」を新たに1ファンド設立

2020年7月にCVCファンドとしてブリッジベンチャーファンド2020を設立しました。
当ファンドは、2014年に設立したブリッジベンチャーファンド2014の投資組入完了に伴い、後継ファンドとして設立したものです。

設立	2020年7月
ファンド総額	非公表
組合員構成	有限責任組合員：事業会社（非公表）、無限責任組合員：FVC
投資対象	特定の事業会社の戦略に沿った投資を行う

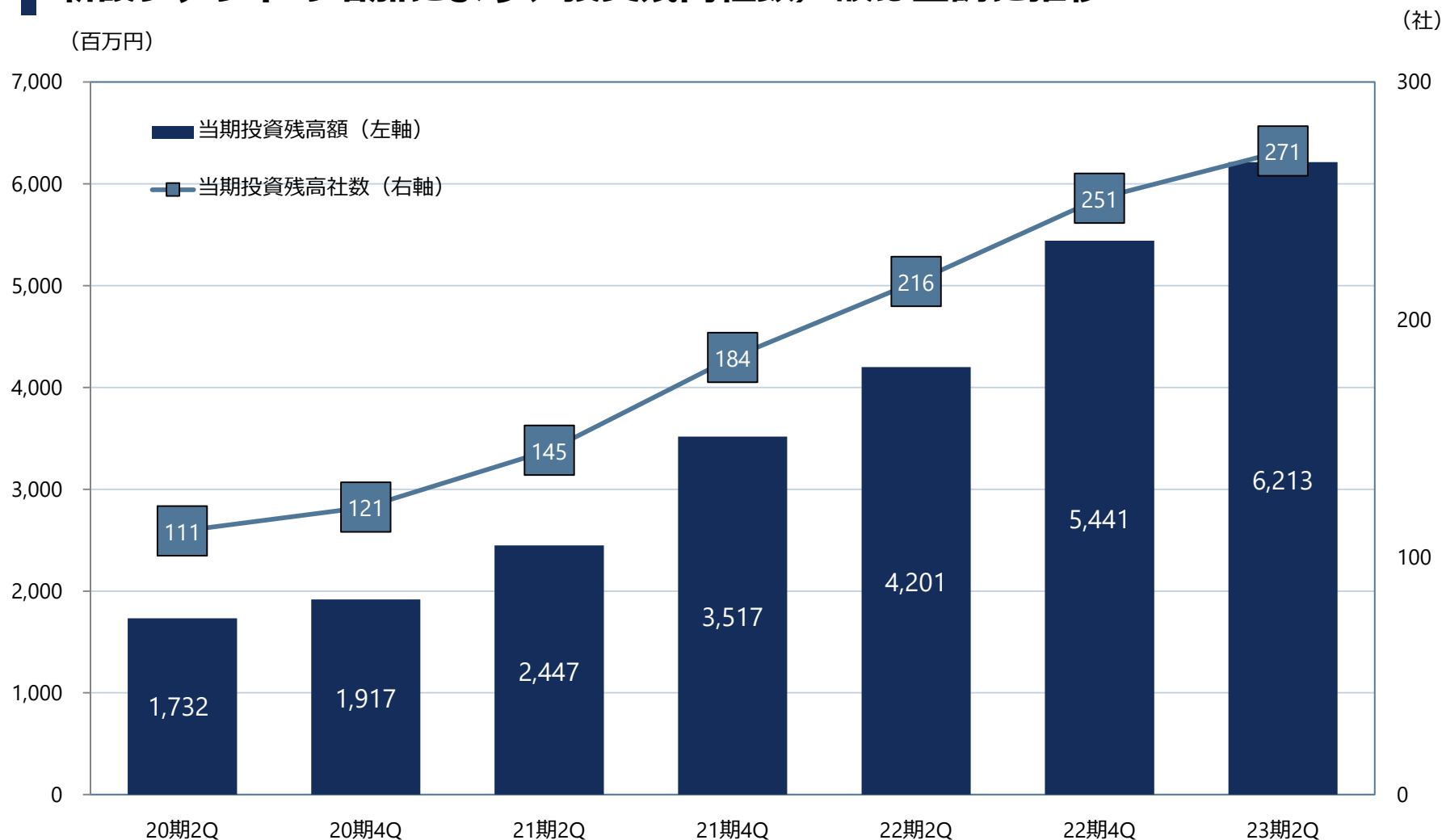
新規ファンド設立数

1 本

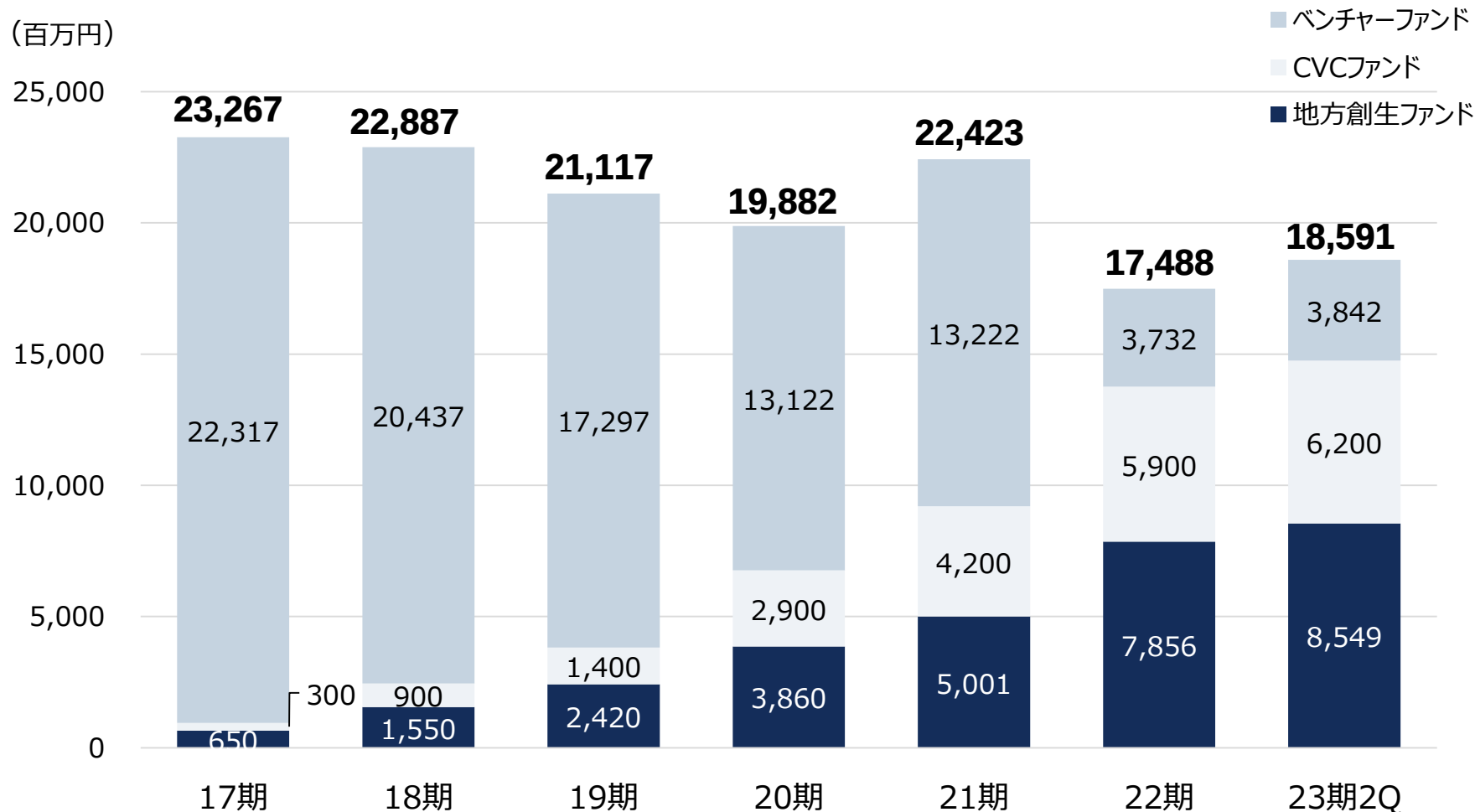
新規ファンド設立総額

非公表

新設ファンドの増加により、投資残高社数／額は堅調に推移



従来型ベンチャーキャピタル業務からイノベーションとリスクマネー供給のためのプラットフォーム会社へ、事業モデルの変革が進む



01

新型コロナ問題が長期化し、投資先企業の業績、資金繰りが悪化し、投資損失引当金や減損損失が増加する可能性があります。これに対し、当社はファンドへの出資比率を抑えることで、当社の業績へ与える影響を従来から減少させています。

02

株式市場の低迷、新規上場の減少によりE x i t環境が悪化し、ファンドパフォーマンス低下や成功報酬減少の可能性があります。しかし、投資時のバリュエーションの低下は投資の好機でもあり、中長期的にはプラスと捉えることもできます。

03

ファンド設立が減少する可能性があります。市況の変化に左右されにくい、IPOやM&Aに出口を限った投資以外の創業支援投資、事業承継投資、事業シナジー投資によって、コロナ禍でも円滑な資金供給ができるファンド設立を推進してまいります。



従前からのビジネスモデルの転換により、新型コロナウイルスによる影響を最小限に。今後の感染状況を注視しながらも成長が見込める先に積極的に投資を継続してまいります。



Future Venture Capital

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。